

1. 評価結果概要表

作成日

平成 21 年 3 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071201513		
法人名	株式会社 末広福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーガーデン		
所在地	福岡市西区拾六町一丁目21番11号 〒 819-0041 (電話) 092-883-2223		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年3月13日	評定確定日	平成21年4月1日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人	非常勤 2 人 常勤換算 13.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての～		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (300,000 円)	無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (円)	有の場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	650 円	おやつ 50 円
	または1日あたり		1,400 円程度

(4) 利用者の概要 (2月 15日現在)

登録人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	4 名	要介護 2	3 名
要介護 3	6 名	要介護 4	2 名
要介護 5	3 名		
要支援 1	名	要支援 2	名
年齢	平均 87.1 歳	最低 78 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	村上華林堂病院、おおつかクリニック、白十字病院、はまだ歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

前法人代表者が、地域の方に少しでも貢献したいとの思いで、介護付き有料老人ホームや通所介護とともに開設したグループホームである。「人格の尊重・感動・笑顔」の理念および「自分自身も入居したい。家族も入居させたい。」というホームの目標である理想の介護を目指し、熱意あるホーム運営への意気込みが感じ取れる事業所である。利用者がその人らしく暮らし続けられるよう、利用者地域の方とのふれあいを大切にしている。地域行事への参加のほか、近隣の幼稚園児との交流やホームでの餅つきに地域の方が多数参加するなど、自然に地域に溶け込んでいることが伺える。地域ボランティアの方による月1回の音楽会も開催され、利用者・家族・地域が一体となって参加するなど、地域とのかかわりが積極的に展開されている。利用者の笑顔からいきいきと過ごされていることが伺える。今後の発展が大いに期待される事業所である。

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)

前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、職員へはミーティング時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、勉強会の委員会を設け、毎月テーマを決めて勉強会を行うなどの成果がみられる。

今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)

今回の受審にあたり、職員全員で内容について協議し、質の向上に向けてのレベルアップを図るなどの取組みがある。

運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)

自治会長、地域住民、利用者、家族などの参加のもとに2ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や行事案内、地域行事への参加案内が行われ、家族面会時の記録について家族から意見をもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)

家族の面会時の声かけや家族旅行などの行事参加時、運営推進会議などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。また、2ヶ月毎に写真を掲載したホーム通信を送付し、行事参加や外出の状況を報告するほか、毎月担当職員が、利用者の健康状態や暮らしぶりなどを手紙にて詳細に伝えている。また、運営推進会議や家族の面会時、家族旅行などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めている。

日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

自治会に加入し、自治会の敬老会や校区の運動会などへ参加する一方、ホーム行事の餅つきへも地域の方が多数参加するなど、地域の人々との交流が図られている。近隣の幼稚園児の慰問や仮装パーティーにて利用者との交流もみられる。散歩時の挨拶やホームの家庭菜園時に近隣の方から苗などの差し入れを頂くなど、自然な形で地域交流への取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「人格の尊重・感動・笑顔」をホームの理念として全 従業者で作成し、職員は常に地域との関係作りを意 識しながら業務に携わっている。自分自身が入居した い、家族を入居させたいと思えるようなホームを目指 し、理念や目標に基づいた支援に積極的に取り組ん でいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、自然に目に入る工夫が ある。また、毎朝の申し送り時や毎月の会議時に、利 用者一人ひとりについて、理念やホームの目標に基 づいた対応の仕方や支援の内容に関する協議が行 われるなど、理念の実践に向けた具体的な取組みが ある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	自治会に加入し、自治会の敬老会や校区の運動会 などへ参加する一方、ホーム行事の餅つきへも地域 の方が多数参加するなど、地域の人々との交流が図 られている。近隣の幼稚園児の慰問や仮装パー ティーにて利用者との交流もみられる。ホームの家 庭菜園時に近隣の方から苗などの差し入れを頂くなど、 自然な形で地域交流への取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員へは職員会議時に改善についての協議 を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で 勉強会の委員会を設け、毎月テーマを決めて勉強会 を行うなどの成果がみられる。今回の受審にあたり、 職員全員で内容について協議し、質の向上に向けて のレベルアップを図るなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、地域住民、利用者、家族などの参加のもとに2ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告や行事案内、地域行事への参加案内が行われ、家族面会時の記録について家族から意見をもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。	○	現在、行政からの出席がない状況での開催となっています。まずは、運営推進会議の内容を行政関係者へ報告することにより参加を呼びかけ、さらには地域情報の収集や、事業所がかかえる課題への意見交換など、話し合いの場として活用される事を期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議時に行政の職員から成年後見制度についてや人権問題、啓発活動についての説明が行われるなど、行政との連携が図られている。また、ケースワーカーの訪問や利用者とのかかわりを通じて、その都度相談するなど、利用者の生活の質の向上に向けて行政とともに取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)の概要や利用手順についての説明については、年1回、運営推進会議時に行政職員から説明してもらい、家族や職員全体で理解を深めている。また、成年後見制度を利用している利用者が必要時支援も行っている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや家族旅行などの行事参加時、運営推進会議などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。また、2ヶ月毎に写真を掲載したホーム通信を送付し、行事参加や外出の状況を報告し、毎月担当職員が、利用者の健康状態や暮らしぶりなどを手紙にて詳細に伝えている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族旅行、行事参加時の働きかけ、家族の面会時などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めている。また、相談・苦情についての意見箱を設け、意見や要望を言い出しやすい雰囲気作りへの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が、日々職員の意見などを傾聴し、職員が働きやすい環境を整え、離職を抑えるように工夫している。新しい職員が入職した際は、2週間程度は日中のみの勤務とし、少しずつかかわりを持たせるなかで管理者や日々のリーダーが見守り、指導にあたるなどの支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等による制限はない。仕事に対する姿勢ややる気を重視しての採用である。レクリエーションの得意な職員に、担当を受け持ってもらい、不得意な職員も一緒に行ってもらうなど、職員一人ひとりの能力を育てながら多方面でやりがいを持って勤務していけるように支援している。また、外部研修参加については、勤務扱いとし、勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1回行政の職員が人権問題、啓発活動についての学習会を行い、全職員や家族が学ぶ機会を確保している。職員会議にて高齢者への尊厳や対応について、職員間にて学び、意識を喚起するなどの取組みもある。また、日々のケアを通じて、人権の尊重について気づきがあれば、申し送りや会議にて検討し指導を行っている。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を提示して外部研修への参加を促し、職員全体のスキルアップを図る取組みがある。また、管理者が研修内容などを考慮して研修を促すなど、外部研修への参加の機会を確保している。入職後は、職員間でマンツーマンにて指導にあたり、育成していくなど、質の向上に向けた取組みがある。	○	管理者が職員の経験や資質に考慮して適切に振り分け、外部研修への参加の機会を確保し、質の向上に取組まれています。今後、職員の希望による外部研修への参加が、積極的に図られることを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の研修などに職員が参加し、職員間の情報交換や同業者との交流、意見交換会など、様々な機会を通じて他事業所との交流が図られ、質の向上に向けた取組みがある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学や2～3日の体験利用などを通じて、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居後は、状況に応じて家族への面会を願いし、利用者へは頻繁な声かけを行い、かかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とかかわる時間を多く持ち、利用者の役割を尊重しながら、日々のケアの中で支えあう関係づくりに配慮している。漬け物の作り方や家庭菜園にて野菜の作り方など、自然と学び支えあう関係づくりへの取組みがある。また、利用者が自然と職員へ感謝の言葉をかけるなど、共に支えあいながら暮らしていこうとする関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員や担当職員が、入居時に情報収集した生活歴や希望などに基づき、申し送りやケアカンファレンスなどを通じて情報を共有し、職員全員で話し合いながら、介護計画に反映させるなどの取組みがある。日々のかかわりを通じて、利用者の表情などから、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に把握した生活歴や希望、家族の意向、日常のかかわりの中で把握した情報をもとに、介護支援専門員や担当職員が介護計画書を作成し、ケアカンファレンス時に全職員で検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のケアカンファレンス時や日々の申し送り時に 本人の状況や対応などの情報交換や共有を職員全 員で行っている。また、3ヶ月毎及び状態変化の際 は、介護計画書の見直しや再作成を行うなどの取 組みがある。ケアカンファレンスにて全職員による月に1 度程度の利用者や家族の意向の確認が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	協力医療機関との連携支援、緊急時のかかりつけ 医や協力医療機関への通院介助を行うなど、利用者 の状況や家族の要望に応じた、柔軟に対応している。 また、入院時は、家族に代わって着替えを届けたり、 利用者の状態を把握し、早期退院に向けて支援を 行っている。個別の希望に応じて、パチンコ店への外 出支援も行われている。		
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の希望があるかどうか把握 している。ホーム協力医などの連携により、月2回の 往診を行い、利用者の状態に応じて協力病院への受 診の支援がある。また、利用者の以前からのかかり つけ医については、定期的に往診が行われ、緊急時 の通院介助については、ホームにて支援するなどの 取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化や終末期におけるホームの方針に ついて説明している。後日、全家族への説明会の開 催を予定し、書面による同意、確認を行う予定であ る。日常の何気ない会話を通じて、利用者・家族の意 向や希望を把握し支援を行う等の取り組みがある。状 況の変化に伴い、その都度家族、主治医、事業所を 交えて協議し、方針を共有していく支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員会議や日常のかかわりの中で、職員の意識の 向上を図ると共に、常に尊厳を持った支援を心がけて いる。タイミングを見計らってのさりげない声かけ、丁 寧な呼称、視線を合わせて笑顔で傾聴するなど、利 用者の尊厳やプライバシーに配慮した対応が見られ た。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し、決して無理 強いせず、様子を見ながら声かけを行っている。ま た、利用者一人ひとりの生活リズムに配慮して、食事 を取る場所、食事にかかる時間、居室で過ごすタイ ミングなど、利用者のペースや気持ちを尊重した対応 が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員が一緒に準備や食事、片付けを している	委託業者にて栄養バランスを考慮した食事を提供 し、昼食・夕食に一品を利用者と共にホームにて調理 している。給食会議で内容を検討し、質の向上に努め ている。下ごしらえや皿洗いなど、利用者一人ひとり ができる範囲で協力しながら行うなどの取組みがあ る。利用者、職員が共に食卓を囲み、和やかな雰囲 気の中で食事を楽しめるような工夫が見られる。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日、入浴できる様に支援しており、利用者の希望 や状況に応じて柔軟に対応している。入浴にかかる 時間や回数など、本人の希望に沿ったケアが実施さ れている。入浴拒否の方へは無理強いすることなく、 声かけを工夫するなど、入浴を楽しめるように支援 している。声かけなどの工夫については、毎日の伝達 ノートで詳細に記録が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日々の会話の中から、利用者の興味や関心がある ことなどを聞きながら、利用者に応じた役割や楽しみ ごとへの支援をしている。皿洗いや料理の下ごしら え、すいかの水やりなど、利用者一人ひとりの持つ ている能力を生かすような取り組みがある。歌の好きな 利用者には、歌を歌ってもらったり、パチンコの好きな 利用者へ外出支援を行うなどの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	月1回以上、花見や買い物ツアー、外食ツアーなど 定期的な外出に加えて、日常生活での散歩や買 い物、地域の敬老会への参加など、外出への支援を 行っている。また、個別の希望に沿って、少人数での 買い物や外食など、利用者の状況に応じて柔軟に支 援している。		
(4) その人らしい暮らしを続けるための生活環境の支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。きめ細かな観察により 外出傾向のパターンを把握し、さりげなく声をかけたり、 利用者と一緒に出かけるなど、利用者の自由と安全に 配慮しながら適切に支援している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署の立ち会いによる避難訓練と自主訓練(それ ぞれ年1回ずつ)を通じて、避難訓練の誘導方法や確 認などを学ぶ取り組みがある。運営推進会議等を利用 して、非常災害時に地域への協力をお願いしている。 今後、運営推進会議時に避難訓練に地域の方への 参加を呼びかける予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士によるカロリーや栄養バランスを考慮した食事の 提供や利用者の状況に応じてきざみ食にするなどの 取り組みがある。また、利用者ごとの食事摂取量の把 握・記録を行い、必要な利用者には、水分摂取を促 し、水分摂取量の把握・記録を行うなど、栄養摂取や 水分確保への支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く、天井も高く、リビングから中庭の花々 が見え、開放的で明るい空間となっている。季節感の ある飾りつけや利用者の手作り作品が飾られるなど、 アットホームで心和ませる家庭的な雰囲気を醸し出し ている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室はベッドや家具が備え付けられており、家族の 手作りのベッドカバーや写真、ぞうり、生花、調度品な ど、利用者にとって馴染みの物が持ち込まれており、 居心地良く過ごすための居室作りへの工夫や配慮が 見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号